

◆（西山信昌議員）

市民の健康づくりの推進について御質問いたします。興味深いアンケート結果があります。シニア向け宿泊予約サービスを提供する会社が50代以上を対象に実施したものです。何歳からを老人と思うかとの問いに、全体の61パーセントが70歳と答えましたが、その70代以上の40パーセント近くの人が80歳以上と答えたそうです。老いはネガティブでなくポジティブなもの、佐藤眞一大阪大学大学院教授は、このような捉え方を紹介されています。「年齢には、1年に1歳ずつ増える暦年齢と、自分が自分を何歳と思うかという主観年齢がある。子供のころは暦年齢より主観年齢が高いが、大人になると主観年齢の方が低くなる。それは、人がポジティブに生きるために必要不可欠な心理なのだ」と。主観年齢が行動などにどういう影響を及ぼすかについては、まだまだ研究途上のようなのですが、健康あってこそ若さが感じられるもの。健康で長生きできる社会を目指すに当たっては重要なテーマであり、市政の推進においても注目すべきではないでしょうか。

さて、国においても健康寿命を延ばすことと、それによる健康長寿社会の実現が最重要課題の一つとされています。それに向けて様々な取組が必要となりますが、健康づくりの推進はその大きな柱となります。健康づくりを進めるうえでは、既に取り組んでいる人に加え、現在健康づくりに取り組んでいない人に対していかにして取り組んでもらうかということが重要であります。そこで健康づくりのきっかけとなるような取組の強化が必要ではないかと考えます。下京区役所の階段には、一段ごとに消費カロリーが表示されており、「健康的でエコな階段どうぞ」、「階段を選ぶなんてさすがですね」などといったユニークなひと言が目に入ります。これを目にした市民は、ふと健康に留意したくなる気持ちになるのではないのでしょうか。

このように、本市の各部局がそれぞれの立場で知恵を絞り健康づくりのきっかけとなる仕掛けが次々と繰り広げられるとき、門川市長が掲げる笑顔・健康都市が大きく前進するものと確信いたします。本市の大きなまちづくりの一つである歩くまち・京都の推進において、健康づくりのコンセプトを強化することも大切であると思います。

また、京都市民健康づくりプランや京都市民長寿すこやかプランには、健康づくり活動の場として利用できる公園整備の推進が掲げられています。まずは、市内の公園でも進む健康遊具やウォーキングコースの設置を更に進めていただきたいと思います。とともに、遊具があってもそれが健康づくりのためにあるということが分からないと意味がないので、説明板の充実も必要であると

考えます。ウォーキングコースにしても、案内表示を見た方がふと歩きたくなるような仕掛けづくりをすることによって利用が促進されます。さらに、下京区役所の階段にあるような表示をすることにより、健康づくりに取り組む人も増えるのではないのでしょうか。そこで、今後、より多くの公園で、健康遊具やその説明板の設置、ウォーキングコースの設置や案内表示、また、健康づくりのヒントとなるような案内板の設置を進めてはいかがでしょうか。

◎副市長（小笠原憲一） 健康づくりのための公園の施設整備についてでございます。公園には、スポーツや緑豊かな憩いの場、あるいは災害時の避難場所としての役割はもちろん、体操やウォーキングなど手軽に健康づくりができる場としての役割がございます。本市では、公園に設置する遊具として、ブランコや滑り台などの子供向けの遊具だけではなく、近年では、背伸ばしベンチや腹筋ベンチ、あるいはぶら下がり器などの健康遊具の設置を進めており、現在59の公園におきまして、合計で166基の健康遊具がございます。また、梅小路公園や宝が池公園、西京極総合運動公園などにはウォーキングコースを整備しており、健康を志向する方々に幅広く御利用いただいております。西山議員御指摘のとおり、市民の皆様の健康寿命を延ばし健康長寿社会を実現するためには、より多くの市民の皆様が身近な公園で気軽に健康づくりに取り組んでいただけるよう環境整備を進めていくことが重要です。そのため、公園の新規整備や再整備などの機会を捉え、健康遊具やウォーキングコースなどの更なる設置に努めるとともに、安全な使い方や使用効果についての説明板を設置したり、コースの通過ポイントには距離だけではなく消費カロリーなどを表示するなどの、より多くの市民の皆様の健康づくりに役立つ公園の施設整備に取り組んでまいります。